

マネージメント情報

※再びアメリカとカナダの搾乳ロボット事情【タイストールのロボット編】

「みなさんはタイストール用の搾乳ロボットがあることをご存じでしょうか？」

先月 10/21 から 11/3 の日程で再度カナダとアメリカの視察研修に行つて来ました。今回は JA 道東あさひ農業協同組合の齋藤営農部長と山岸営農企画課長、北根室農業改良センターの吉田所長と私の 4 名の予定でしたが、タイストール用の搾乳ロボットの視察があるということを知りつけた農林水産省から 3 名、農業コンサルタントの方が 3 名が是非参加したいということでカナダまでは 10 名という大所帯になってしまいました。

タイストール用の搾乳ロボットはカナダのケベック州にある Milkomax という会社が製造している「Roboleo」といいます。搾乳ロボット部分は Lely 社から供給してもらい、Milkomax 社がタイストール用に独自の開発したものです。発売当時は Lely の A2 がベースになっていてトラブルがそれなりにあったようですが、現在は最新型の A4 がベースになり改良も進んでいて殆ど問題は無いようでした。

【写真-1 左側】



【写真-2 右側】



【写真-3 2台導入農場①】



【写真-4 2台導入農場②】



フリーストールの搾乳ロボットと同様に 1 台当たり 50 頭が基本的な処理能力です。上の写真のように 100 頭規模の農場は 2 台設置していました。現時点では 3 台設置している農場が一軒あると聞いています。

1 頭当たりの搾乳時間は 7~8 分で次の牛までの移動時間を含めると約 10 分かかります。

10分×50頭=500分で60分で割ると8.33時間で洗浄の時間や多少のトラブルを考えるとロボットだけの3回搾乳は現実的には無理ですが、牛を限定すればそれなりには可能のようです。訪問した農場の中にはパイプラインを全て外している農場もありましたが初乳だけはバケットで搾っていました。また、既存のパイプラインを残してロボット搾乳だけではなくパイプラインでも搾乳して3回搾乳を実践している農場もありました。

カナダでは搾乳ロボットの導入に当たっては Valacta という乳検組合の様な組織がサポートを行っています。酪農家に対しどのようにしたら搾乳ロボットを経営に生かせるか、準備段階から導入後のシミュレーションをおこない Milkomax 社と一緒に酪農場を応援する態勢が整っていました。

また Milkomax 社は積極的な販売戦略はとっておらず、導入を検討している農場に対しては十分に説明をし、実際にその酪農家がちゃんと使用・管理できるか見極めで無理だと判断したら販売はしないということでした。隣のオンタリオ州にも販売しているのですが、ディーラーのサービスが充実していないので販売実績は多くはありません。これは社長の考え方が会社の経営方針にもなっていて海外への輸出も同様に慎重で、日本への輸出も現状ではいつになるかわからないとのことでした。

しかし農林水産省は安倍内閣の「働き方改革」を酪農分野にも浸透させなければならないようで、特に全国的にも管内的にも酪農家の70%はタイストールでの繋ぎ飼いなので、これらの酪農場への省力化対策を真剣に考えなければならず、タイストール用の搾乳ロボットの早期導入を進めたいとのことでした。今回はそういう意味での同行とのことでした。

今後は Milkomax 社の日本での現地調査を始めることからのスタートとなるのではと考えます。

農林水産省と同様に JA 道東あさひ農業協同組合も真剣に導入を考えていますので今後に期待しましょう。

インターネットで下記 URL が Milkomax 社のホームページと YouTube で動画が見ることができますので是非ご覧になって下さい。

URL <https://milkomax.com/en/milking-robot/>

https://www.youtube.com/channel/UCma-nsL4_zYsgCYNFnf7GEQ

.....
・今回の JA さんと一緒に海外視察は初めての経験でしたが、きっかけは5月にカナダとアメリカの搾乳ロボット牛舎の視察の報告を JA で行ったことでした。それは搾乳ロボットが新築だけでなく既存の牛舎へのインストールが可能だということをお伝えしたかったこと。また北米には様々な情報があるということをお伝えしたかったという理由からでした。

カナダのタイストール用の搾乳ロボットに始まり、給餌施設の自動化や換気システムの正しい考え方、アメリカ酪農の現状をウイソコンシン州、インディアナ州カリフォルニア州と回り、最後にプロクロス (ProCross) という三元交配のクロスブリーディングの授精所に行って来ました。ホルスタイン×モンベリアル×スウェーディッシュレッドをこの順に交配するというやり方で産次数は一産延びて乳量はホルスタインと変わらず乳成分は上がり当然ながら病気は減るということです。

www.creativegeneticsofca.com/procross.htm

再度シリーズで今回の視察についてお知らせします。